

東海道藤川宿 街道筋及び宿場町の 面影を残す町並み



歌川広重「藤川 棒鼻ノ図」(「東海道五十三次」保永堂版)

東海道藤川宿は、慶長6年（1601）、東海道五十三次、品川宿から数えて37番目の宿場町として設けられました。

平成8年（1996）、歴史上重要な幹線道路として利用され、特に重要な歴史的・文化的価値を有する道路として、国により「歴史国道」に認定され、「藤川宿まちづくり研究会」を中心とした地域住民により宿場文化財の保存や活用など歴史

を活かしたまちづくりの取組みが行われています。

約1kmの間にクロマツ約90本がそそり立つ「藤川の松並木」、宿場町の出入口である「棒鼻跡」、江戸時代の門が残る「脇本陣跡」、道中記や古歌に読まれた「むらさき麦」の栽培などに、往時の宿場町の面影をしのぶことができます。



藤川の松並木



脇本陣跡（藤川宿資料館）



街道裏の水路



西棒鼻跡



むらさき麦



芭蕉の句碑



伝統的な様式の建物



東棒鼻跡

